

「働き続けること」の意義を考えるキャリア教育授業実践の試み —「転職」を題材とした授業実践開発—

A trial of a Career Education class to Think about Significance of
“Continuing Working”
-Developing Classes about "Change of Job"-

谷山 大三郎

千葉大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻

本研究では、転職を題材とし「働き続けること」の意義について考えることをねらいとした授業を開発し、その成果と課題を考察することを目的とする。現在、「7・5・3問題」といわれるよう若者の早期離職の増加が問題視されている。この若者の早期離職がフリーターやニートの増加の要因ともいわれており、キャリア教育として取り組まなければならないテーマの一つといえる。

なお、本実践は企業と連携した授業実践を開発するNPO法人企業教育研究会の事業の一環として、株式会社リクルートエージェント及びリクルートワークス研究所の協力を得て、実施したものである。

キーワード：授業実践開発、キャリア教育、転職、転機、企業との連携

1. 問題の所在

本稿は、児童・生徒が、「働き続けること」の意義について考えることをねらいとしたキャリア教育の授業実践開発の試みを考察したものである。

まずここでいう「働き続ける」とはどういうことか、また「働き続けること」の意義とは何か、について考えてみる。

ここ最近、若者の早期離職が問題視されている。「7・5・3問題」とよばれ、大卒者の3割、高卒者の5割、中卒者の7割が、就職後3年以内に離職している。¹特に大卒者の早期離職率は、4割近くにまで高まっている。

若者の早期離職を選択した理由をみると、職場環境が合わない、仕事内容が合わないなど、悲観的なものが多い。²しかし悲観的な理由で離職をしたとしても、転職に成功し、自分に合った就職先を見つけることができればよい。たとえ離職をしたとしても、必ずしもよい就職先を見つけることができるとは限らないが、それでもしぶとく求人情報を探していればいつか職が見つける可能性はある。

問題は、いったん就職してもすぐに離職し、定職に就かずアルバイトで暮らすフリーターや教育や訓練も受けておらず、就業もしていないニート³になってしまふ若者が増えている⁴ことである。

もちろんフリーターやニートが一概に悪いとはいえ

ない。しかし、フリーターは正社員に比べて、会社からの社会保障支援を受けられない、賃金が安い、マニュアル通りで誰でもできる仕事を任されることがほとんどで技能が身につかないなどが考えられる。また正社員からフリーターになるのは容易であるが、フリーターが正社員になることは困難な場合がある。⁵さらに近年、家賃も払えずインターネットカフェで生活をする「ネットカフェ難民」の増化も問題視されている。⁶「ネットカフェ難民」は、インターネットで派遣のアルバイトを転々として食いつないでいる。また健康保険に加入しておらず、病気になった時に十分な治療を受けられないものや、その日限りの仕事をし続けていて、将来の不安を抱えているものが多い。

このようにフリーターは、有職者よりもデメリットを受けることが多い。またニートは、就業機会もなく、教育や訓練も受けていないため、フリーターよりもさらにデメリットがあるといえる。

このような場合、有職者が、現職に納得がいかず離職を選択したとしても、その後簡単に有職者として働くことをやめてしまわないようにすることが重要になってくる。

そこで本稿では、「働き続けること」とは、たとえ転職をしたとしても、再度有職者となり、働き続けることとし、転職を例にして、生徒が「働き続けること」の意義についていかに考えられるかを考察する。

転職を今回の授業の題材として取り上げたのは、転職を「働き続けること」の手段の一つとして意味づけ、「働き続けること」について、その意義を考えることが可能になると判断したからである。

キャリア教育が必要とされる背景には、フリーターやニートの増加などの社会問題があげられる。もちろんキャリア教育は、一概に就業問題に特化して取り組む教育とはいえないが、キャリア教育の一つの取り組みとして、本実践授業を行うべきであることは十分にいえるだろう。

2. 転機を題材とした授業を行う

ここまで、「働き続けること」について述べてきたが、転職を直接題材として授業づくりを行うのは難しい。まだ就職もしていない児童・生徒に転職を題材とした授業を行っても理解が難しく、実感をもつことが難しいからだ。そこで別のアプローチがないか検討した。

そこで転職を一つの人生の転機ととらえ、転職も含めた人生の転機とどう向き合い、転機をどう自分の人生に活かしていくかについて考えることで「働き続けること」へ関心を持ち、その意義を考えることがより身近にできるのではないかと考えた。そのため、転職を扱いつつ、転機へと目を向けていくように授業を開発することにした。

転機を活かしてキャリアを形成していくことについては、キャリアカウンセリングの手法として用いられることがある。⁷今回はそのキャリアカウンセリングの理論を参考にした。

特に参考にしたのは、アメリカのキャリアカウンセラーであるクランボルツの理論である。クランボルツは、転機とキャリアとの関係において、⁸「数百人に上るビジネスパーソンのキャリアを分析した結果、キャリアの八〇%は予期しない偶然の出来事によって形成される」ということを分析し、計画的にキャリアを形成することよりも、偶然の転機を活かしてキャリアを形成していくことの重要性を提唱している。

偶然の転機を活かしてキャリアを形成していくためには、偶然の転機と出会ったときにそれをチャンスに変えられるように準備をしておくこと、また普段から主体的に行動することが重要であるとクランボルツは述べているが、これは仕事だけではなく、人生全体に当てはまるであろう。「働き続けること」ができるようになるためには、良い出来事でも悪い出来事でもその偶然の転機をうまく活かして次のキャリアを設計していくことが大切である。そのためには、転機に出会ったときにそれを良い方向に活かせるような準備、心構えを常にしておくことが必要となる。

以上のことを踏まえて、本授業では、転職を題材にし

つつも転職のみに特化せず、それを人生の転機の一つととらえ、児童・生徒が自らの人生について、特に転機について考えることをねらいとした授業を行うこととする。

3. 「人生転機グラフ」について

本授業では、生徒への事前課題として、「人生転機グラフ」を宿題として書かせた。(図1参照)。

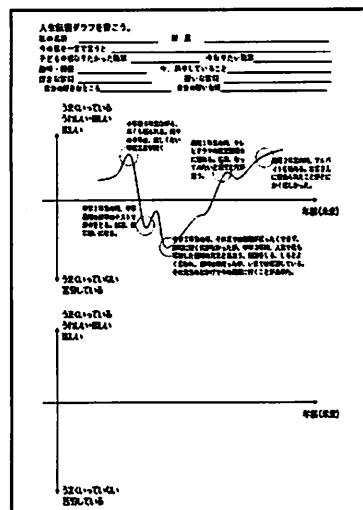


図1 人生転機グラフ例

この「人生転機グラフ」とは、自分の人生を振り返り、どのような人生を歩んできたかを書き表すものであり、右から左へ年齢に沿って、人生をグラフで表現するものである。人生を数直線で表現し、曲線が上に行くほど「うまくいっている時、うれしい、楽しい時」とし、下に行くほど「うまくいっていない時、苦労している時」を表すようになっている。また、曲線が大きく変化する時に、どのような転機があったのかも書くようになっている。

自分の人生を振り返る上でグラフ化する手法は、キャリアカウンセリングで使われることがある。例えば、キャリアカウンセラーの小島は、「転機を中心に自分の人生を振り返ることで、自分の興味を知り、そこから自分のやりたいことが見つかるきっかけになるかもしれない」⁹と述べ、転機を中心に人生をグラフ化する手法を取り入れている。

今回、筆者はこの「人生転機グラフ」を、特に何も参考にせずに考案し、同様のものがキャリアカウンセリングの手法として使用されていることは授業実施後に知った。今回は、キャリアについて強く悩んでいない中学生や高校生を対象に、この「人生転機グラフ」を用いて授業を行ったが、その成果としては、カウンセリングにおける本来の目的である自分の興味・関心に生徒が気づけただけでなく、生徒が人生に対して前向きになった

ことや講師としてともに授業を行う社会人が自身の仕事内容や生き様、仕事のやりがいなどを生徒に紹介する際に話しやすいなど、予想していなかった成果が得られた。これに関しては後ほど述べることとするが、この「人生転機グラフ」を用いる意義が十分あることがわかった。

4. 本授業の概要

筆者は、これまで二つの中学校、一つの高等学校と計3校で本実践を行った。もちろん児童・生徒の発達段階に応じて、授業内容を多少変更して行っている。

なお、本実践は企業と連携した授業実践を開発するNPO 法人企業教育研究会の事業の一環として、株式会社リクルートエージェントの協力の元、実施された。以下、紹介するのは中学2年生を対象に行った実践である。

単元名：「働き続けることの意義について考える」

教科：総合的な学習の時間

時間：50分×2

学年：2年生

実施日：平成18年3月22日（水）

ねらい：働き続けることの意義について考える。また人生の転機を活かすことが重要であることを知る

講師：株式会社リクルートエージェント

システムエンジニアの仕事をしている方
事前課題：「人生転機グラフ（別紙参照）を書く」

①まず講師から、転職とは何か、どのくらいの人が転職を経験しているのかなど、転職について説明をしてもらった。

②次に、黒板に「7・5・3」と書き、何を表す数字か生徒に考えさせ、その後「若者の早期離職率」であることを伝え、「7・5・3問題」について解説を行った。またその際に、転職者の増加も関係していることも同時に伝えた。

③実際にどのような転職の例があるのか、クイズを交えて紹介した。（図2参照）また活動終了後、1時間目のまとめとして、転職を人生の一つの転機として考えることを生徒に伝え、2時間目では自分たちの転機、そして大人の転機にはどのようなものがあるかを見ていくことを伝えた。

④事前課題として生徒に作成させておいた「人生転機グラフ」を手元に用意させ、生徒同士で紹介させた。そして数人の生徒には、全員の前で発表をしてもらった。

⑤講師の人生転機グラフを紹介した。（図3参照）講師からは、真剣に行っていることはいつか役に立つ、子どもの頃の経験は今の仕事につながっていることなど、講師の人生を振り返りお話をしていただいた。

⑥最後に、中学生ならほぼ全員が経験するであろう高校受験という転機をむかえるにあたって、今できることは何かを考えた。

以上が中学2年生に行った授業の流れである。ちなみに高校2年生に行った際も、基本的には同様の流れで授業を行った。しかし、より就職に近い年代であったことから就職と学歴の関係、高校時に身につけられる「社会人基礎力」などについて、「若者の早期離職問題」を解説する際に合わせて話してもらった。

5. 本実践の成果と課題

5.1. 本実践の成果

今回は中学2年生に向けて行った授業の成果と課題について考察する。ねらいの一つであった人生の転機について考えられた点に加えて、ねらいとして意図していなかった点で大きな成果を得ることができた。反対に課題は、当初考えていた授業のねらいが十分に達成できなかつたので、授業のねらいが達成できるよう指導案を改善することである。以下、本授業を実施しての成果と課題を順に書いていくこととする。

まず成果は三つある。一つ目は、生徒たちがお互いの「転機グラフ」を見せあうことで、自分以外も皆つらい経験をしているということを認識し、また誰もがそのつらい経験を乗り切ることができることを知り、前向きになつたことである。これは社会人の転機グラフを見ることで、よりいっそう感じたようである。授業後のアンケートを見ると、「どんな人も皆失敗するし、やりたかったことができなくなつても、また次にやりたいことができる。ということがわかつて、少し自信がついた。」、「人生って上がったり下がったりが続いて初めて『道』が築かれるんだね！」などが書かれており、以前よりも前向きになつたという記述が見られる。これは人生の流れから落ち込んだ時期を視覚で見ることができたこと、自分以外もつらい経験をしていることを知ったこと、自分のつらかった時期を人に紹介することができたことが要因であろう。

出来事の一部分だけを言葉のみで紹介することは、説明する方にとって説明が難しく負担となる。また言葉のみで説明を聞いている方にとってもイメージを持ちにくくわかりにくい。そこで人生転機グラフを用いて、人

生全体の流れから人生の出来事を紹介することで、その人の嬉しかったことやつらかったことが伝わりやすく、また紹介するほうもうまく説明することができた。これによって、どのような人にもつらいことがあるが、どんなことでも乗り切ることが可能であると思い、前向きな気持ちになったようである。

二点目は、「子どもの頃の経験も含めて一生懸命やっていたことはいつか役に立つことがある」ということを、生徒が実感できることである。授業後の感想で「生きてきた中の一つ一つが将来につながっていくということを大事にしていきたい。これを機に色々なことを挑戦していきたい。自分の中の可能性を信じて、努力して、失敗して、生まれ変わり、生きていきたいと思う。」、「今まで受けた影響やこれから受ける影響が将来に役立つとよい。人生の転機はこれからもあると思うけれど、それも大事にしていきたい。」という記述が見られたが、社会人の転機グラフを見ることで、このような感想を持ったようである。今回講師を担当した方は「私はシステムエンジニアの仕事をしているが、システムエンジニアの仕事では数学とコンピュータをよく使い、子どもの頃からこの二つのことには興味があつてそれが今の仕事につながっている」と説明した。

数学については「もともと昔から好きだったが、中学2年の時、たまたま本屋で東大の数学者の、数学者について書かれている本を見つけて、そこに数学者の生きざまがたくさん書いてあった。それで数学は単なる数字ではなく、人間味があるものだと知り、数学への見方が変わった。それからは例えば定理も覚えるのではなく、自分で導きだしたなど取り組み方がかわった。」のことである。コンピュータについては、「小学校5年生の頃、パソコンを買ってもらった。当時は珍しく、高価なものだったので、すごく興味をもち、それ以来ずっとパソコンをいじっていた。」のことである。そしてその経験が今も生きていて、システムエンジニアの仕事に就いたと話した。このことが生徒に「子どもの頃の経験がいつか役に立つことがある」と伝わった要因であろう。

三点目は、転機グラフを用いることによって、社会人の仕事内容や歩んできた人生、仕事の苦労ややりがいをわかりやすく生徒に伝えることができたことである。キャリア教育の課題の一つに、ゲストティーチャーをいかに効果的に紹介するかがあげられるだろう。問題なのは、ゲストティーチャーが児童・生徒に対して話し慣れていないことや話だけでは児童・生徒が仕事などについて想像する事が難しいため、ゲストティーチャーの職業観や勤労観が伝わらないことである。今回「人生転機グラフ」を使ったことで、ゲストティーチャー自身が自己的人生を順を追って話せたためにスムーズに説明することができ、また聞いている生徒側もビジュアルと合わせて聞けたため、理解しやすかったようである。

5.2. 本実践の課題

では次に課題について述べることとする。まずは本授業のねらいの一つであった「働き続けることの意義について考える」ことが充分達成できたとは言えないことである。要因として考えられることは2点ある。

一つ目は離職の問題は説明できたが、「働き続ける」とどのようなよいことがあるのかを説明できていなかった点だ。

二つ目は、一つ目の理由とも関係あるが、2時間目に行った「人生転機グラフ」の印象が強く、人生の転機へ生徒が注目したことである。筆者は、講師の「人生転機グラフ」を紹介することで本授業のねらいが達成できると考えていた。もちろん授業のねらいを多少達成できた点もあるが、感想からも直接ねらいを達成できたとはいえないことがわかる。今後は「転職」から「働き続けること」を考えられるよう、特に1時間目の流れを検討することとする。

もう一つの課題として、1時間目の終わりで行ったクイズについてである。ある人が転機を迎えた時にどのような行動をとったかをクイズで答えてもらうという内容であるが、これの反省点は人生にあたかも正解があるということを生徒に暗に示してしまったことである。これは講師から指摘を受けたことである。筆者自身は、のような印象を与えるつもりはなかったが、結果的になってしまったと反省している。これについても今後、教授方法を工夫することで改善していくこととする。

6. 参考資料

6.1. 授業で使用したスライド

あこがれの先輩に出会い、貿易会社に就職した田中さん（仮名27）。世界の石油出荷で日々、外国語を使い、世界の人とやり合ふ自分の姿を夢見て、その会社に挑戦、見事働くことができた。



ところが田中さんが担当した仕事は、東北地方の農家でできた野菜を東京などの大都市に運ぶという仕事だった。

小さなからずショックを受けた田中さん。
「このままではやりたいことがやれない。どうしよう。」
そう思い、田中さんはプロのカウンセラー（川野さん）に相談をしました。
さて、みなさんがカウンセラーダったらどうアドバイスをしますか。

どんなアドバイスをしたのか。



- 1 「海外で活躍できる仕事をすぐに探すべきです。
思い立つたらすぐにやったほうがいいですよ。」
- 2 「本当に海外のお仕事をやりたいのか、
もう一度考えてからの方がいいんじゃないでしょうか。
今のお仕事は、楽しくないですか。」
- 3 「海外で働きたいのか、英語を使った仕事をしたいのか、
まずは考えてみましょう。
それから自分に合った仕事を探ししましょう。」

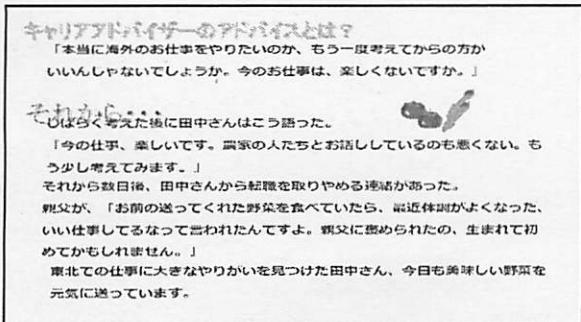


図2 1時間目で使用したクイズ

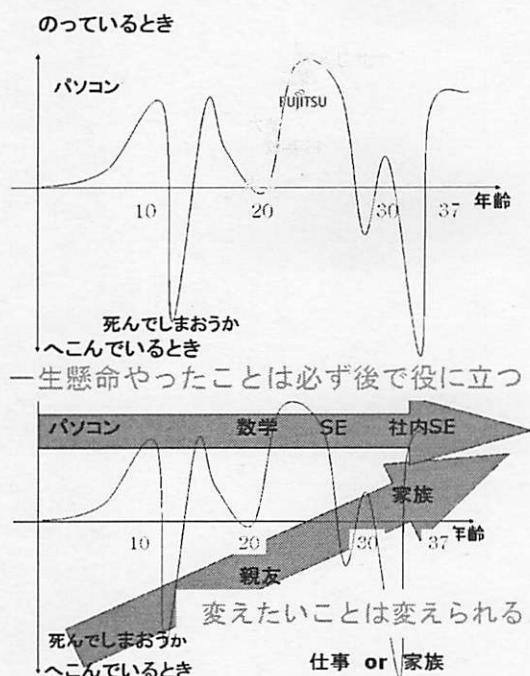


図3 講師が紹介した人生転機グラフ

6.2. 生徒の感想

- ・何事もチャレンジ精神が大事
- ・職業に就くことで、色々なことを得ることがわかつた。
- ・将来のことをよく考えなければいけないということがわかつた。
- ・就職の難しさ、就職後の出来事など、色々わかりました。結構おもしろかった。
- ・転職と言う言葉は、今までよくないイメージであったけれど、そうでもないと思った。転職するのがイヤだということの理由で会社を辞めて、もっとイヤな仕事になってしまった人の話を聞いて、欲張ることはよくないと思った。今、仕事に就いているということを大切に、むやみに転職しようとしてはいけないと思う。
- ・知らないことがたくさんあって、とても勉強になつた。
- ・色々なことがたくさんあって、とても勉強になった。

- ・色々なことを教えてもらってよかったです。
- ・話を聞いていて、いつか自分に合った仕事を探せたらいいなあと思った。
- ・早く自分も働きたい。
- ・社会のことが色々わかつて少し安心した。どんな人も皆失敗するし、やりたかったことができなくなつても、また次にやりたいことができる。ということがわかつて、少し自信がついた。
- ・生きてきた中の一つ一つが将来につながっていくということを大事にしていきたい。これを機に色々なことを挑戦していきたい。自分の中の可能性を信じて、努力して、失敗して、生まれ変わり、生きていきたいと思う。
- ・今まで受けてきた影響やこれから受ける影響が将来に役立つとよい。人生の転機はこれからもあると思うけれど、それも大事にしていきたい。
- ・おもしろかったけど、疲れた。しかし、ためになつた。いい授業でした。
- ・世の中、金だけじゃダメだってことを思い知った。人生って上がったり下がったりが続いて初めて「道」が築かれるんだね！知らなかつた。
- ・おもしろかった、川野さんの体験談。自分の将来役立つと思う。
- ・色々な仕事をやるには友達が大切なんだなあと思いました。じっくり考えて自分に合う仕事を捜して、楽しく働けるようになれたらしいなと思いました。
- ・転職の話など色々聞くことができてよかったです。自分が仕事に就く時には、自分に合っている仕事をしたいと思うようになりました。
- ・転職とか、色々な言葉を教えてもらった。就職は大変だとわかつた。
- ・就職や転職は自分に合っているものや、やる気がないとできない。今日の授業で、自分の将来について色々と考えることができた。
- ・自分のちょっとした活動で、未来が見えてくる。やつてきたことが良いのか、悪いのか。後にならなきやわかんないけど、知っていて損はない。後悔しないように選択したい。
- ・転職のことがわかつた。おもしろかったし、すごくわかりやすかった。川野さんが結構すごい人なんだなと感じました。
- ・仕事に関して、色々と学べてよかったです。
- ・「転機」と出会ってしまい、わからなくなつた時は、「リクルート」に相談すればいいということがわかつた。「へこむ」こともあるけど、それを乗り越えることができれば、「良い」こともあるということがわかつた。
- ・今日の授業を聞いて、これから先やりたいことをやってみて、自分に合う職業をいくつか見つけたいなと思

いました。

- ・人には色々な転機があるんだなあと思った。自分にとって何が大切なのか改めてわかった。すごくいい時間だった。自分の将来について、もっと真剣に考えてみようと思った。
- ・なかなか楽しかった。自分のやりたいことをもう一度考えてみようと思った。

¹ 厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」、2005年

² 小杉礼子編『フリーターとニート』勁草書房、2005年、P70

³ 玄田有史、曲沼美恵『ニート フリーターでも失業者でもなく』幻冬舎、2004年参照

⁴ 小杉礼子編『フリーターとニート』勁草書房、2005年、P70

⁵ 小杉礼子編『フリーターとニート』勁草書房、2005年、P70

⁶ NNN ドキュメント'07 2007年1月28日(日) 放送
<http://www.ntv.co.jp/document/index2.html>

⁷ ナンシー・K・シュロスバーグ、武田圭太・立野了嗣監訳『「選職社会」転機を活かせ』日本マンパワー協会参照

⁸ 高橋俊介『キャリア論』東洋経済、2003年

注 クランボルツの論文「Planned Happenstance Theory」は、現在手に入れることができず、今回は、高橋の著書からまたぬきさせていただいた。

注 ここでのキャリアとは、人生のことを指す。

⁹ 小島貴子『女のための転機予報』幻冬社、2007年、P